

令和4年度卒業記念パーティーを開催いたしました!!

令和5年3月14日(火)に令和4年度卒業記念パーティーがホテルオークラ京都にて開催されました。今年度はコロナ禍から3年ぶりの卒業記念パーティーとなり、4学科毎に4会場に分かれての開催となりました。お世話になった先生方への花束贈呈を行い、先生方からは卒業生に向けての応援メッセージが贈られました。また、学生生活の思い出の映像が流れると懐かしい学生生活が蘇り、大いに盛り上がりました。



お知らせ

令和4年度 教育振興会より図書を寄贈いただきました。

令和4年度教育振興会予算により84冊(122,438円分)の図書をご寄贈いただきました。特設コーナーに展示し、利用に供しています。パリエーション豊富な図書は、学修の合間の読書や学生生活の充実に役立てられています。この度のご寄贈に心より感謝いたします。



教育振興会寄贈図書特設コーナー



小説コーナー

自習室をリニューアルしました。

このたび教育振興会からの支援を得まして、学生の皆様の学修をサポートするために、自習室および自習スペース等のリニューアルをいたしました。

国試に向けての受験勉強はもちろんのこと普段の学習にも利用しています。学生達からも個人のスペースが確保されており、学習に取り組みやすい環境が整備されたことがとても嬉しいと感謝の言葉が届いています。



2号館2階自習室



8号館4階自習スペース



看護学部[看護学科] * 保健医療学部[救急救命学科・柔道整復学科] * 鍼灸学部[鍼灸学科]
大学院[鍼灸学研究所・保健医療学研究所]

〒629-0392 京都府南丹市日吉町 TEL 0771-72-1181 FAX 0771-72-1189 E-mail gakusei-shien@mst.meiji-u.ac.jp



明治国際医療大学だより

Meiji University of Integrative Medicine News Letter Vol.24

大学情報誌



表彰者

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> *学長賞
安河内 亜実 (鍼灸学科)
今掛 光 (柔道整復学科)
早川 朋実 (救急救命学科)
舩田 華 (看護学科) *谷口健蔵賞
矢島 道子 (鍼灸学研究所 博士後期課程) *特別功労賞
安河内 亜実 (鍼灸学科)
足達 実佳 (柔道整復学科)
松川 容子 (鍼灸学科) *教育振興会 会長賞
野田 功樹 (鍼灸学科)
迫田 光太郎 (柔道整復学科)
神崎 冬真 (救急救命学科)
椎葉 花梨 (看護学科) | <ul style="list-style-type: none"> *全日本鍼灸学会 会長表彰
大下 紘平 (鍼灸学科) *鍼灸学系大学協議会 優秀賞
伊部 功記 (鍼灸学科) *日本鍼灸師会表彰
川上 志乃 (鍼灸学科) *全日本鍼灸マッサージ師会表彰
入江 麟斗 (鍼灸学科) *日本柔道整復接骨医学会賞
松原 魁利 (柔道整復学科) *日本柔道整復師会表彰
三谷 頼子 (柔道整復学科) *全国救急救命士教育施設協議会表彰
松井 健太郎 (救急救命学科) *日本私立看護系大学協会表彰
松山 育真 (看護学科) *京都府看護協会花束贈呈
伊集 千恵 (看護学科) |
|--|--|

プロフェッショナルを目指す君たちへ

学部学科を卒業される皆さん、卒業おめでとうございます。

在学中の三年間、新型コロナウイルス感染症に翻弄されながらの学生生活でしたが、そのような状況下での様々な制約や制限があったからこそ、気づいたこと、見えてきたことが多々あったのではないのでしょうか。この貴重な体験を医療人として進む専門職の道に是非生かしてください。

専門職はプロフェッション(profession)と呼ばれ、かつては医師、弁護士、聖職者の職に限定されていましたが、現在では鍼灸師、柔道整復師、看護師、救急救命士もプロフェッションです。プロフェッションには生涯にわたり資質向上と高い倫理観および利他の精神を志向することが他の職種よりも高く求められます。換言すればプロフェッショナリズム(Professionalism)です。

内科医であったウィリアム・オスラー(1849~1919年)は、「私たちが今ここにあるのは自分の幸せのためではない。他の人々の人生をより幸せにするためである。諸君が将来の職業とする医業は、ただ単なる手仕事ではない。アートである。高いではない。天職である。使命感を持った専門職である。頭と心とを同じように動かさねばならない専門職である」とプロフェッショナリズムの重要性を医学生に語りかけました。この語りかけは、医療人の卵である皆さんにも向けられたものと受け留めてください。

入学時に抱いた夢、それを実現させるために取得した資格、そして、今、それぞれの夢の実現に向けて一歩を踏み出す時が来ました。これからは社会人として新たな夢を念じ、新たな道を拓いてください。

最後に社会へ巣立つ君たちに坂村真念(1909~2008年)の詩「念ずれば花ひらく」を贈ります。



学長 矢野 忠

1年生、2年生の後期臨床実習がスタートしました。

通常期間の臨床実習は、3・4年生を中心に、附属鍼灸センターで行われています。しかしながら、早くから臨床に触れることが重要であるため、夏期や冬期間を利用して、1、2年生にも臨床実習が行われます。今回は、1年生、2年生が合同で行う臨床実習をレポートします。

1年生は、患者さんに対する接遇や2年生の先輩の姿を見て来年自分たちが、こういう実習をするのだと自覚してもらおうのが目標です。また、骨や筋肉の触り方を習っているのですが、実際の患者さんの身体に触れさせていただくこともありますが、多くの学生は緊張で手が震えたり、手が冷たくなることもあります。2年生は患者さんの話を聞き、病態を把握することが目標です。2年生ともなれば、授業で各疾患の病態、検査、経穴は一通り習っているのですが、先生から修得度合いを確認されることもあります。

実習後に学生にインタビューしてみると、学生Aさんは「授業で習った経穴に実際に鍼灸が施術されていたり、脈診などの東洋医学の検査が行われていたため、実技授業の重要さがわかった。実際に臨床を見学することで、さらに鍼灸に興味があった。」、学生Bさんは「普段の授業では、友人同士での実技では緊張感がなかったりすることもあるが、実際の患者さんを前にすると緊張感を持って臨むことができ、改めて治療の難しさがわかった」など普段の授業に対しても意識が高まっています。1、2年生から生の臨床を経験することで、鍼灸師となる夢を膨らませながら、日々頑張っています。



柔道整復師国家試験

国家試験にむけて

第31回柔道整復師国家試験が3月5日(日)に、大阪電気通信大学にて開催されます。

今年度の4年生たちは、2019年から流行した新型コロナウイルスの影響から、講義や学外実習、キャンパス内での生活などについて様々な困難に遭遇してきました。しかし、その都度仲間たちと励ましあい、切磋琢磨してその困難を乗り越えてきました。

残り2週間後に控える柔道整復師国家試験は大学4年間の中で最も大きな困難とも言えます。4年間で学習してきたことの集大成を見せるべく、現在4年生たちは大いに勉強に励んでおります。学生の中には夜遅くまでキャンパス内に残り、仲間と教え合いながら勉強している学生もいれば、小さな教室を開き、ゼミのように教えてくれている学生もいます。また、わからないところがあればすぐに質問に来られます。

このように、一生懸命に頑張る学生を全力でサポートするべく教員も一丸となって、国家試験全員合格に向けて精進してまいります。



ウォーターレスキュー実習

新型コロナが流行りだして3年余り 大学の学生生活にもいろいろな制約があります。学外の宿泊を伴う研修も影響を大きく受けている部分ですが2022年度分は宿泊のところが近場の施設に切り替えたり、バスでの日帰りを繰り返したり様々な感染対策のもとで実施しています。1年生はライフセービング実習を8月下旬に綾部高校プールでの基礎訓練後9月上旬に福井県の若狭・和田海水浴場にて実施。また、2年生は8月上旬に水難救助の基礎になるウォーターレスキュー実習を亀岡市の保津川にて実施しました。学外での実習は座学や教室内訓練では得られない現場に近い空気感を体験でき学生の気づきやその後の成長に重要なものです。また、スポーツボランティア実習では様々なマラソン大会やトライアスロン大会の進行や救護などの裏方を通して救急医学の勉強だけでは得られない広い視野を養っています。

2022年10月からは長年病院麻酔科臨床を務めていた智原栄一が新学科長として着任いたしました。前学科長(樋口)とはかつて同じ病院手術室で脳外科医師と麻酔科医師として働き気が知れた間柄で、樋口氏による救急救命学科の立ち上げを引き継ぎさらなる学科発展と学生教育の充実を図ります。卒業時の救急救命士国家試験合格の対策はもちろん消防士・警察官をはじめとする種々の公務員試験対策にも力を入れ、多くの卒業生が希望する職業に就けるための支援をしたいと考えています。

学科長 智原 栄一

ウォーターレスキュー実習風景



保健師コース フィールドワーク

保健師コースでは、学びを深めるためにフィールドワーク活動を行っています。

毎年開催されるAIDS文化フォーラム in 京都のPRを兼ねて、大学内で学生対象のHIV予防啓発活動を行いました。保健師学生が作成したHIV予防に関するクイズに挑戦してもらい、正しい知識を確認しました。

また、南丹市社会福祉協会のご協力により、胡麻地域まちづくり協議会主催の「ごまデイ」の皆さんとオンラインで楽しく交流し、体操などのレクリエーションを実施しました。

南丹市社会福祉協会日吉事務所だより「hanaso」にも紹介されました。



看護学部 3年生 老年看護学実習

秋から始まる老年看護学実習で、介護老人保健施設へ実習に行っています。

人生の大先輩である高齢者の方々とレクリエーション活動を通して、私たちがたくさん笑顔と元気になれるパワーをいただいています。

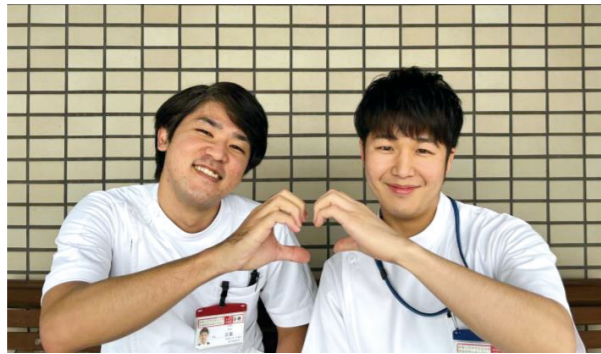


比嘉翔平さん博士論文発表会の様子

2022年度に本学大学院博士後期課程を卒業された比嘉翔平さんに、大学院の3年間を振り返った感想をお聞きました。

「私は、修士課程で多くの臨床を経験する中で“なぜ鍼治療が効く人と効かない人がいるのか？”という素朴な疑問から、鍼治療の機序についてさらに学びを究めるために博士課程へ進学し、痛みに対する鍼治療、特に慢性痛について研究を行いました。1年目はコロナ禍であったため、研究は行わず痛みについて知識を深め、2年目は、痛みが長引く原因について基礎的な研究も行いました。3年目に入ってから鍼治療の効果にどんなものが影響するのか研究を行い、“自分の痛みはもう治らないかもしれない……”などのように、痛みに対して悲観的に考えてしまうことが鍼治療の効果に影響する可能性を明らかにしました。答えのない問題を追究するのは、面白くも難しく、右往左往しながら楽しく学ぶことができ、貴重な経験でした。これまでの経験を活かして今後も研究を続けていくと共に、教育機関での就職が決まっているので、教育や後進の育成にも携わっていきたいと思っています。」

比嘉翔平さんの今後の活躍に期待しています！ご卒業おめでとうございます！



比嘉さん(写真左)と同期の堀さん(写真右)

卒業生が大学院でリサーチクエストを探索探求

本学学部を卒業した大学院生（看護師、鍼灸師）が高齢者の排便管理や看護職のメンタルヘルスを「研究の問い」として新たな知見の発掘に取り組んでいます。大学院修了後は大学の研究・教育者や高度な臨床家としてキャリアを伸ばすことができます。更なるキャリアアップに繋がる博士後期課程設置も計画しています。



大学院生



大学院講義風景

女子柔道部 全日本ジュニアで宮城選手が日本一

2022年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会が9月10・11日(土日)の2日間、埼玉県立武道館で行われ、女子柔道部から地区予選を突破した6人の選手が出場。女子48kg級で宮城杏優選手(柔道整備学科3年)が頂点に立ち、個人では本学初の全国優勝となりました。また、78kg超級に出場した川口鈴王選手(救急救命学科2年)が準々決勝で優勝した新井万央選手(日本体育大学)に敗れましたが、敗者復活戦を勝ち上がり見事3位入賞を果たしたほか松浦ゆうき選手(看護学科2年)も5位と健闘しました。

48kg級で優勝した宮城選手の話

「言葉が出てこないほどうれしいです。今までは自分に自信が持てませんでしたが、今日は思い切って自分の柔道に集中し、強い気持ちで戦うことができました。応援ありがとうございました」



左から松浦、宮城、川口選手

陸上競技部 富士山女子駅伝に古西選手が出場 選抜チームの4位に貢献 1月の関西学生ハーフマラソンでも好タイムで4位と活躍

2022年12月30日(金)に静岡県富士宮市と富士市の富士山麓コースを舞台に行われた「2022全日本大学女子選抜駅伝競走」(富士山女子駅伝・7区間43.4km・出場24チーム)の全日本大学選抜チームのアンカー(7区・8.3km)として本学陸上競技部の古西亜海選手(鍼灸学科1年)が出場しました。

距離が2番目に長く上り坂が続く難しい区間を力走。区間7位(30分41秒)と粘りの走りですりから順位をひとつ落としましたが3位の日本体育大学との差は詰め、後続の立命館大学との差を広げるなどチームの4位入賞(2時間25分39秒)に貢献しました。

古西選手は2023年1月29日(日)に大阪国際女子マラソンと同時開催の第4回関西学生ハーフマラソン選手権大会に出場。一気の距離延長にも気後れすることなく前半から積極的にレースを進め1時間13分36秒で4位と健闘。実業団選手や関東の大学勢などを含めた2023大阪ハーフマラソンの総合でも11位と力のあるところを示しました。応援ありがとうございました。



富士山女子駅伝で力走した古西選手
(写真提供:月刊陸上競技)

女子サッカー部 3年連続5回目の全国大会でベスト16

2022年秋のリーグ戦(関西1部)を5勝1敗1分で終え、過去最高の勝点16を挙げ3年連続5回目の全国大会(第31回全日本大学女子サッカー選手権大会)の出場を決めた女子サッカー部。12月24日(土)に行われた1回戦で北海道地区代表の札幌大学と対戦。序盤から押し気味に試合を進め前・後半に2点ずつをあげ4-0で快勝し3大会連続となる2回戦進出を果たしました。その2回戦ではベスト8進出を目指し関東の強豪・神奈川大学と激突。前半は一進一退の攻防を繰り広げ0-0で折り返しましたが、後半に入り3点を奪われ0-3で敗戦。2大会連続のベスト8進出はなりませんでしたが、関西代表として最後まで諦めない戦いぶりが光りました。応援ありがとうございました。



安河内主将

谷口和彦理事長が、 功績者として南丹市より表彰されました

令和5年1月26日、南丹市国際交流会館において、令和4年度南丹市表彰式が執り行われ、本学院の谷口和彦理事長が、南丹市の教育の振興に特に功績があった者として功績者表彰を受賞しました。

この表彰は、南丹市表彰条例に基づき、市政の発展に顕著な功績のあった人に対し、その功績をたたえ表彰されるものです。また、西村市長は「教育振興の分野で、多年にわたるご活躍は南丹市の発展に大きな力となった」と感謝の言葉を述べられました。



京都府警察本部と 「命をつなぐ災害対策包括連携協定」を締結しました

令和4年7月1日（金）、本学8号館4階会議室において、災害救助を行える救急救命士を養成する明治国際医療大学と京都府警察本部は災害対策に関する包括連携協定を締結しました。

締結式では、本学の矢野学長、京都府警察本部の姫野警備部長が挨拶され、協定書へ署名を行いました。矢野学長からは、様々な災害が多発される昨今、災害現場から守らなければならない「命」を双方の資源を有効活用することによって、より質の高い対策と救命活動が実践できることは、とても有益であると述べました。

なお、締結式前に本学救助訓練施設において機動隊及び航空隊による救助訓練が実施され、救急救命学科の学生が見学しました。



第43回たには祭

令和4年10月16日（日）に3年ぶりとなる第43回たには祭を開催しました。学園祭のテーマは、「輝け！復活のたには祭」と称し、来場者は350人を超え大盛況で幕を閉じました。実行委員長の救急救命学科2年生 野田くんをはじめ、各学科から集まった学園祭未経験の実行委員たちが、新たな仕様で見事にたには祭を復活させました。コロナ禍での開催のため、規模を縮小して大学関係者のみでの実施となりましたが、天候にも恵まれ、学生によるフリーライブショー、軽音ライブ、学生の主張、並びに園部高等学校吹奏楽部の演奏と大いに盛り上がりしました。また、キッチンカー7台には終始行列ができるほどの賑わいをみせました。来年は、本学関係者だけでなくご卒業生や保護者の皆様、また地域の皆さまをはじめ、一般の方々にもご参加頂けることを願うばかりです。



健康サポート

本学附属病院は、内科、整形外科を始め全16診療科があり、入院病床も114床あります。これらの施設は、各学科の臨地実習等はもちろん、学生さんの健康管理にも役立っています。

急病への対応

授業中等の体調不良が発生した場合、まず保健室へ案内します。その後、附属病院の保健室担当看護師長が校医と相談のうえ必要に応じて診療科の受診を勧めます。また、下宿生や寮生が休日・夜間等に怪我や発病した場合も、当直医等と相談のうえ可能な限り対応しています。

健康診断

年度初めのオリエンテーションで実施する健康診断では、附属病院検査部が対応し、健康診断の判定は附属病院の医師が行っています。また、入学時の抗体検査等も附属病院看護部の協力のもと実施しています。

ワクチンの接種

昨今では、本学が新型コロナウイルスワクチン職域接種会場となり、附属病院の医師・看護師（看護学科教員含む）がワクチン接種を行っています。また、臨地実習に際し義務付けられているインフルエンザワクチンについても学内で接種しており、特に共同生活を送っている学内の女子スポーツ寮生については原則接種を促しています。



中西校医
(臨床医学講座 教授)

